

児童発達支援・放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表：令和 6 年 12 月 28 日

事業所名 かばさん らば

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	70%	30%	パーテーションやマットなどで場所を分けたりしています	クールダウンできるスペースの確保も今後考慮していきま
	2	職員の配置数は適切である	100%		PT/OT/STのセラピストの方が個々に応じたプログラムを組んで療育をしています。	セラピストと保育士、指導員が付くようにしています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	70%	30%	学習など人数の多い時は待つ場所を別のところに変えたりして工夫をしています。	玄関が狭いので、終わる時間の調整を今後もしていきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	70%	30%	朝礼へ参加された職員も多く話し合う時間を多く取るようにしています。	療育ははじめや終わりに情報を共有できる時間を作り、フィードバックをしたり課題について話し合ったりしています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	70%	30%		今後も保護者からの希望にできる限り対応できるように、職員間で協議し、改善できるように工夫したいです。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80%	20%		ホームページにて公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			未実施	福祉サービスの第三者評価を受けていません。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	70%	30%	主に常勤のスタッフに対して療育に関する所内研修を行っています。	支援ミーティング等で、児童を支援していくうえでの課題点や検討事項等の確認、社内外研修に参加する機会を設けるなど、職員が自己研鑽しやすい環境に努めていきます。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	90%	10%	非常勤のスタッフもいますので前もってアポを取り、出勤時に時間を作ってください会議をしています。	保護者からのニーズ等をお聞きし当事業所として提供できる支援内容やご本人に必要と思われる支援等について、保護者等と相談を行い、計画を立てています。必要に応じて関係機関等とも情報共有しています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	70%	30%	個々の特性に応じた療育プログラムを、担当のセラピストと相談しながらその日の課題を決め進めています。	活動内容や支援方法などについて、児童指導員、理学療法士、言語聴覚士等多職種の視点から検討し、プログラムを考えながら活動プログラムが固定化しないよう工夫して進めていきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	70%	30%		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	70%	30%		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	70%	30%	次回の課題や予約は各セラピストの先生にお願いしており、そこで後程フィードバックで職員に共有しています。	今後もスタッフが共有できる療育を考えて進めていきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%		利用者様の必要性に心しながら個別と集団とに分けて療育をしています	コミュニケーションが苦手な利用者様に対しては、個別指導を行いながら集団に移行できるように計画を作成しています
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	90%	10%	前回の様子課題を共有して進めています。	毎回打ち合わせを行っています。前日の様子や、当日の活動等について確認を行っています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	70%	30%	療育終了時に軽くフィードバックするようにしています。	支援終了後にその場にいる支援員で振り返りを行っています。次の日の打ち合わせの際にも再度振り返りを行い、共有しています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		支援内容を連絡帳におろしています。	日々の記録を取ることを徹底しています。また気付いたことを担当職員に返しています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%		半年に1度見直しをしています。	定期的にモニタリングを行い、計画を作成し、児童発達管理責任者が見直しをして更新をしています。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	70%	30%	ガイドラインに沿った支援計画書を作成しています。	今後もガイドラインに沿った支援計画書を作成していきます。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	70%	30%	児発管が主にケース会議に出席しています。	今後は、該当児童の担当セラピストも時間ができたら作っていただき一緒に会議に参加できるようにしたり、会議内容も話し合い一緒に共有できたらと思います。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	50%	50%	送迎は行っていません	学校行事の把握は保護者や利用者からの話の中で共有する事が多いです。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	/	該当利用者なし	・今後、対象児童が出てきたときは、医療とも連携しながら対応を考えていきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	50%	50%	・家族の方の承諾のうえ、連携を取らせていただいたりしています。	・家族の方の承諾のうえ、訪問や電話やメールなどで連携を取らせていただく方向でいます。
	24	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	/	/	該当利用者なし	・今後、対象児童が出てきたときは、各相談機関連携しながら対応を考えていきます。
	25	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	80%	20%	近郊の療育センターに通われている方はその訓練の様子を聞いたりして進めています。	・今後も療育に関する相談など積極的に関わっていきます。
	26	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	60%	40%	児発管が主に会議に出席しています。	会議内容を周知できるようにしながら、別の形で地域との交流も考えていきます。
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		療育終了時に軽くフィードバックするようになっています。	・個々の特性を理解したり、保護者のニーズも踏まえたうえで、子どもの様子を振り返りながら次の支援へと繋げていきます。
	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	20%	80%	個々に応じて必要な利用者さんには取り入れています。	・必要に応じて取り入れていきます。
保護者への 説明責任等	29	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		契約時にしています。	・引き続き、対応を考えていきます。
	30	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		個々に応じてアドバイスが必要な利用者さんには取り入れています。	引き続き個々に応じたアドバイスを取り入れていきます。
	31	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		100%	父母の会・保護者会はしていません	・今のところは実施は考えていません
	32	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		大きな苦情は受けていません	・もし事案が発生した際は、状況把握した後、迅速に誠実に対応をしていきます。
	33	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10%	90%	お便りは発行していませんがお知らせなどはその都度ラインを回したり手紙にして渡しています。	・連絡帳で今日の療育の内容を知らせたり、ラインなどのツールで様子を伝えたり動画を撮って見て載せたりして情報共有をしています。
	34	個人情報に十分注意している	100%			必要に応じ、会報等の発行・活動概要や行事予定についての子どもや保護者への発信方法の仕方を工夫していきます。
	35	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%		タブレットゼスチャーマカトンサインなど必要に応じて対応しています。	保護者や利用者とは相談しながら、アイテムを取り入れていきながらコミュニケーションをとっていきます。
	36	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		100%	実施していません	事業所の体制次第、ゆくゆくは考えていきたいです。
	37					

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	80%	20%	スタッフがいつも見える位置にマニュアルを置いています。	マニュアルの場所がわかるように、スタッフに伝え把握できるようにしていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	70%	30%	年に2回以上訓練を実施しています。	・引き続き、避難訓練を実施していきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		年に2回以上虐待研修を実施しています。	・事態が発生した際は、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上で、記録を残し伝えていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に	100%		今のところは身体拘束等はなしです。	・身体拘束を行わざるを得ない事態が発生した際は、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上で、記録を残し伝えていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	30%	70%	おやつ・食育療育を実施していません。	・小麦粉粘土や小豆アレルギー素材に含まれる物を使った療育をする等配慮が必要となった際は、医師とも連携をしながらその該当児童の保護者様には説明をし、除去したり代替えのもので療育を進めるようにしております。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	30%	70%	重大な事故が起こらないように環境を考えていきます。	・大きな事故の発生に繋がらないように共有や改善策を考え話し合いをしていけるように努めていきます。